

第2学年「みがく」学習活動案

授業者 岩坂 尚史

2月22日（金） 2階D室 9:00～9:40

1 活動名 生活を見つめて～どの意見を優先すべきかな～

2 活動について

二年生は、一年生のころから、毎日のようにサークル対話を行い、思ったことを語り合い、聴き合うことを中心に据え日々を過ごしてきた。毎日のサークル対話を通して、子どもたちにとって何でも話し合える空間ができてきているが、一方で、日常でお互いの思いがすれ違うことは当然ある。

そこで、具体的な話題から自身の生活や日常生活を振り返り、少しずつ子どもたち同士で解決することができるように、ピースフルスクールプログラム（以下PSP）を参考にした学習をすすめている。このプログラムは自分の意見を持って、学校やクラスの集団に参加し、一緒に協働して社会を作っていくための自立と共生の力を育むことを目標としている。学習時には、アクティビティを行いながら、楽しみながら学ぶことを通して、自分の意見をもつこと、それが周りの意見と異なってもよいこと、いやな時はいやだと言うことは悪いことを学んできた。

今活動では、PSPの「対立を自分たちで解決する」のプログラムを参考にする。これは、子どもたちの中で生じる対立を、先生の助けを借りることなく自分たちで建設的に解決することを学べるように設定されている。対立を解決するために、お互いが話しあおうとすることが大切だと言うこと、お互いが満足する方法を模索すること、対立を解決するために、原因を把握しようとするということを子どもたちと一緒に学んでいきたい。

本時は、対立の原因を考える段階で、自分たちの生活は自分たちで作っていくことができるように、「本当に多数決で決めてしまってもよいのか」と考えることができるような人形劇の内容を提示する。多数決は、なるべく多くの人が満足する決め方ではあるが、本学級は、威勢がよく声が大きい男子が主張して物事が進んでいくということが、休み時間の遊び、生活班での決め事などの状況でよく起きている。多数派だからといって本当に多数派が満足しているのか、意見を表明していない子はどのようなことを考えているのか、その声を聞かずに安易に決めてしまってもいいのか、多数派だからといって公正な意見であるのかなどを考えさせたい。

3 学習活動計画（4時間目／全5時間）

①たいりつとけんか（1）	対立と喧嘩について知り、対立は悪いことではないことを知る。
②たいりつをかいけつしてみよう（2）	対立したときにどうすればよいか、できるだけ多くの人が満足できる解決する方法は何かを考える。
③どうしてたいりつしたのかな（2）	対立の原因を考え、解決の方法を考える。

4 本時の活動について

（1）本時のねらい

○解決する方法を考えることを通して、様々な意見に耳を傾ける重要性がわかる。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1 始まりのアクティビティを行う。	○アクティビティを通して楽しむ身体をつくる。 アクティビティ：こんな子探し
2 これから学んでいくことを知る。	○対立の原因を考えることを伝える。
3 人形劇をみて、対立状況を理解し、どうして対立したかの原因を考える。	○今までの学習経験とつなげて考えるように、支援する。